

なぜ吉川市は裁判するのか、 本来は話し合いをすべき

齋藤 詔治



問 吉川市は吉川美南駅東口周辺地区土地区画整理事業で5件の裁判中です。1点目は、吉川市が令和3年9月に新たな土地明渡裁判を起訴。この敷地は産業ゾーン売却保留地の一部です。裁判中は売却できず市の対応は。2点目は、吉川市が令和2年4月20日に訴訟を提起、令和3年6月8日に取下げ。私は、この裁判は無益で吉川市の税金の無駄使いと訴えました。本年4月に吉川市に対し、土地所有者4名から4件の裁判が起こされました。事件の内容と今後の対応は。いずれも土地区画整理事業推進に当たり、【照応の原則】と財産権の侵害の訴えです。積極的な話し合いと新たな裁判が起こされない努力をお願いします。

答 1点目の令和3年9月の土地明渡裁判は、令和4年9月に判決が下されました。相手方が不服として控訴するか不明です。当該土地はデータセンターの一部保留地です。不法占有物が解消された後の対応になります。2点目の市が行った仮換指定の行政訴訟分に対し、令和4年4月14日に4名の土地所有者から仮換地指定処分取消請求を求める訴訟です。

コロナ「第7波」への 対応とワクチン接種

稲垣 茂行



問 コロナ「第7波」の市内感染状況は。

答 7月中旬から現在まで連日、数十名の感染者が報告され、7月は1,812人、8月は3,071人。令和2年に初めての感染者が出てからの累計は、9月14日時点で11,962人となっている。

問 4回目のワクチン接種状況は。

答 3回目の接種から5カ月を経過した60歳以上、18歳以上で基礎疾患のある方及び医療従事者等が対象。8月23日時点で60歳以上は、11,525人が接種し、接種率は59%。

問 草加保健所管内医療体制の現状は。

答 第2次東部医療圏では、9月10日現在、確保病床216床のうち使用病床118床で使用率は54.6%、重症者は2名。

問 新ワクチン（2価）接種の実施計画は。

答 2回目接種を終え、最後の接種から5カ月を経過した12歳以上が対象。9月28日から接種を開始する予定。

問 5歳から11歳への3回目接種は。

答 9月14日から市内6医療機関で接種を開始した。

パブリックコメントなし 緑なし北口駅前広場の改修

岩田 京子



問 吉川駅北口広場改修にあたりなぜパブリックコメント（30日以上）を実施しなかったのか。

答 警察、バス・タクシー事業者との協議、福祉・子育て団体から意見を聞き、交通の危険性、バリアフリー化、老朽化等、課題は見えた。議会には2回説明。15日間意見募集をし、23名から意見をいただいた。

問 短い意見募集期間にもかかわらず多くの方の意見が出たのは関心が高いからだ。市民参画の絶好の機会だったのでは。

答 様々な機会で、様々な手法で市民の皆様に参画いただくことが市政運営の基本。どの手法を使うかは各事業課が判断して進めている。

問 駅前広場の改修における緑化計画は。

答 中高木は道路の見通しに影響があるため、敷地外への移設を検討している。緑化については詳細設計を進める中で検討する。

問 計画があいまい。緑の基本計画で駅前は、さらに緑化を充実させ、本市の玄関口として「緑の拠点」と位置付けられている。緑被率は。

答 駅前広場は道路にあたる。緑被率は5%。

「若者支援」に 女性の困難を盛り込んで

林 美希



問 今年度発足した「若者支援の在り方検討会議」の進捗、方向性を伺う。

答 総振に掲げた若者支援施策の推進、今後の方向性を検討するために設置した。若者支援としての対象や課題の捉え方は広いと認識しているが、まずは「不登校」と「ひきこもり」を対象とし、現状やその解決に向けた手法を考えるとところからスタート。今年度中に当初報告書を取りまとめられる予定であり、可能なところからすみやかに事業化を検討していきたい。

問 「ジェンダー」「予期せぬ妊娠」について成人年齢引き下げから「詐欺被害や性的搾取の標的となりやすいこと」を課題や検討項目としてとりまとめたいただきたいがいかがか。

答 今年度の会議の中で踏み込んだ議論はされていないが、これらが起因となり支援が必要となった場合は各所管と連携しながら若者支援としても取り組む必要があると考えている。

問 若者と定義する市民にリーチする困難さをどのように捉えているか。

答 おかれている状況が様々。会議の中でも意見が交わされており、報告書で示す。